

日蓮ひとつ志あり。十七日にして返る様に、安房国にやりて旧里を見せばやと思て、時に六十一と申弘安五年

壬午九月八日、身延山を立て武蔵国千束郷池上へ著ぬ。釈迦仏は天竺靈山に居して八箇年法華經を説せ給。

御入滅は靈山より良に当れる東天竺俱尸那城跋提河の純陀が家に居して入滅なりしかども、八箇年法華經を説せ給

山なればとて御墓をば靈山に建させ給き。されば日蓮も是如、身延山より良に当て、武蔵国池上右衛門

大夫宗仲が家にして死可候可。縦いづくにて死候とも、九箇年の間心安く法華經を讀誦し奉候山なれば、墓をば

身延山に立させ給へ。未来際までも心は身延山に住可候。

(弘安五年十月七日)